研究課題　「iPod touch」を使ったモバイルプレゼントと学術映像のアーカイブ開発
種別　公募研究
代表者　畑　祥雄（総合政策学部）
研究員　奥野　卓司（社会学部）、井垣　伸子（総合政策学部）、藤本　真一（総合政策学部）

2008 年度は学術映像の分野を最も難しい医療映像に絞り、講談社の「病気の地図帳シリーズ」をベースにした「家庭の医学・映像版」の制作に取り組んだ。

別紙資料にあります医療映像 30 本を、総合政策学部の大学院生 1 人、学部 3 年生 5 人、学部 2 年生 5 人の計 11 人のチームで映像制作をした。

これらの映像は、各人が監督・シナリオライター・キャメラマン・映像編集・ＣＧ制作・映像デザイン・音楽楽曲のマルチテクニカルのリテラシを高めながら、ひとりで 3 分間の医療映像を制作したものである。

この研究の背景には、総合政策学部が 2003 年度より導入し既存の映像制作である分業制によらずパーソナルにトータルプロデュース力を養う情報演習（表現）のカリキュラムを修了した学生・大学院生達が次のステージとしてのオンザジョブトレーニングとして医療映像を制作したものである。

これらの医療映像は、三田市民病院の待合室などで市民や患者さんに iPod などを活用して医療情報を提供していくことが進められている。

また、携帯電話などにも配信をしながら、子育て時に子どもの病気で悩む親に対して、病気の症状を伝え、早期に医療施設に行くことをすすめたり、夜間診療の当直医療機関を知らせることにも活用ができる。

さらに、大人の病気編では、予防医学の見地からも、専門用語が多い活字主体の医学百科事典の医療映像版として便利に活用できる新しいツールとして注目をされている。

大きな分野では、安心・安全な街創りの一環として、医療機関の充実が望まれている折に、市役所のホームページなどにこれらの医療映像が公開されていくことで、市民に医療映像情報を提供することで、町としての安心を満たすことにもつながる。

これらの医療映像を大学内で創れることは、大学のメディア情報学科のカリキュラムとして先駆的であると高く評価されている。